

**情報通信審議会 情報通信技術分科会  
携帯電話等周波数有効利用方策委員会  
700/900MHz帯移動通信システム作業班（第7回） 議事要旨（案）**

## 1 日時

平成22年 4月21日(水) 16:00~17:00

## 2 場所

総務省 8階 第一特別会議室

## 3 出席者（敬称略）

## 作業班構成員：

若尾 正義	(社)電波産業会
石川 禎典	(株)日立製作所
石田 和人	クアルコムジャパン(株)
伊藤 健司	ノキアシーメンスネットワークス(株)
上杉 浩之	日本電気(株)
木津 雅文	トヨタ自動車(株) (代理：田村 雅信)
草野 吉雅	京セラ(株)
小林 明	(社)電子情報技術産業協会
佐々木 邦夫	パナソニック(株)
菅田 明則	KDDI(株)
菅並 秀樹	日本放送協会
杉本 明久	(社)日本CATV技術協会
田中 伸一	ソフトバンクモバイル(株)
谷口 正樹	富士通(株)
土田 敏弘	日本電信電話(株) (代理：上野 真一)
土居 義晴	三洋電機(株)
中川 永伸	(財)テレコムエンジニアリングセンター (代理：小竹 信幸)
中島 潤一	(独)情報通信研究機構
西本 修一	(財)移動無線センター
浜名 康広	(財)日本移動通信システム協会
古川 憲志	(株)NTTドコモ
牧野 鉄雄	日本テレビ放送網(株)
諸橋 知雄	イー・モバイル(株)
矢野 陽一	(株)ウィルコム
山口 博久	インテル(株)
山本 浩介	モトローラ(株)
山本 裕彦	シャープ(株)
要海 敏和	UQコミュニケーションズ(株) (代理：伊藤 泰成)

## 事務局：

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 竹内、同課 推進官 豊嶋、同課 課長補佐 中里、同課 課長補佐 村田、同課 移動体推進係長 白壁、同課 第二技術係長 遠藤、同課 移動体推進係 江原、同課 第二技術係 小池

#### 4 配布資料

資料番号	配布資料	提出元
資料81-700/900移 7-1	700/900MHz帯移動通信システム作業班(第6回)議事要旨(案)	事務局
資料81-700/900移 7-2	委員会(第40回)における議論の総括	事務局
資料81-700/900移 7-3	ITSと隣接他システムとの共存条件の検討手法の説明	ITS無線システム委員会事務局
参 考	委員会からの検討指示事項に対する作業班検討結果のまとめ	事務局

#### 5 議事概要

##### (1) 前回議事要旨について

前回議事要旨(案)(資料81-700/900移 7-1)は、作業班構成員に事前に送付されていることから読み上げは省略して配付のみとし、気づきの点があれば、3/24(水)までに事務局まで知らせることとなった。

##### (2) 委員会における審議について

事務局から、資料81-700/900移 7-2に基づいて4月13日に開催された携帯電話等周波数有効利用方策委員会(第40回)における審議についての説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

石田構成員：「委員会からの検討指示事項」の課題1について、委員会からポイントが示されたが、それに対して総務省としてどのようにまとめられるのか。

事務局：委員会に提出した資料は、ITSを含め現時点での情報として取りまとめたものである。必要な情報を追加していくことは考えているが、周波数利用の条件等の書き換えが必要になるほどの大きく変化があるとは聞いていない。

石田構成員：ハーモナイズを行う際の問題等に踏み込むわけではなく、現状を取りまとめたものという位置付けか。

事務局：そのとおり。

山口構成員：本作業班では世界標準に合わせるべきとの議論も行われ、委員会では当初の周波数割当てを基に検討を進めると取りまとめられたと理解している。今後、世界標準とかけ離れた周波数配置は今後問題になるだろうという観点から検討を進めていきたいと思っており、今後の進め方についてはICTタスクフォースでの検討結果を待ってから検討を行う方が良いのではないかと。

事務局：一点補足するが、既存の周波数割当てを基にしてというのは、700/900MHz帯をペアにするということではなく、現在利用可能な周波数帯を前提に調査をするという指示であった。その他に、新たに利用可能な周波数帯が出た際にも、先にシステム間のガードバンド幅や共存条件が導き出されていれば、

状況変化にも十分対応できる。あらゆることが決定するまで待つのではなく、技術的に検討できるものについては、あらかじめ検討を行うということである。

若尾主任：「世界標準に合わせるように」と言われているが、ITU-R のどの勧告を指しているのか。

山口構成員：ITU-R では勧告 M. 1036、または以前より作業班で指摘されている AWF や GSM900 である。

若尾主任：「世界標準」と単純に言うと、ITU-R の勧告を指すものと思われるが、「世界標準」にそろえることは重要なことであり、日本もそれに従うものと思われる。本作業班メンバー間での「世界標準」の認識にずれがある可能性があるため、事務局でも ITU-R でどの程度まで議論が進んでいるのか調べてみてはいかがだろうか。

若尾主任：事務局からも説明があったが、本作業班で議論すべきことは、700/900MHz 帯を移動通信に割り当てる場合にどのような共用条件を考えて割り当てるべきなのかということであり、本検討結果が直ちに割り当てにつながるものではないが、上下の組合せのことも考えながら干渉調査を進めていくことになる。

前回の委員会へ提出した資料中、700MHz を下りに使用するのには MIMO アンテナの都合で無理である、と読める資料であったため、「下りに割り当てるのは不可能であろう」とのコメントがあった。実際問題として、技術的に実現が不可能であるのであれば 700MHz 帯は上りにしか使用できないとなるが、この点についてもアドホック等でも検討していただきたい。

谷口構成員：資料の趣旨としては、周波数が低い方が波長の関係により端末の設計が難しく、周波数が高い方が端末の設計が行いやすいというものだが、端末の設計についてより詳細なものを出すべきなのか。

事務局：700/900MHz でペアにして同時に動作させると品質劣化が起き、それをカバーするための電力を確保したときに端末のサイズは現行のものに収まるのかというコメントがあり、主査からも実装上の課題について作業班で検討をする指示があったものである。

石田構成員：資料 81-700/900 移 7-2 の 2 に「なお、今後のいろいろな状況の変化があれば、その都度柔軟に取り入れて検討していくこととする。」とあるが、AWF との整合性を検討していくとなると柔軟に取り入れるのは難しいと思うが、ドラスティックに進め方や時間軸を変更して検討するようなものなのか。

事務局：状況の変化は予測することができないので、状況変化が起きた際にその都度対応していくことになるだろう。AWF についても相手があることなので決定の時期が確定していないため、現状で決定できるものではない。

山口構成員：5月の中旬に ICT タスクフォースより、他国との周波数アレンジメントとの整合性について方向性を打ち出すとのことだが、その際には事務局より説明をお願いしたい。

(6) その他

土居構成員から、資料81-700/900移7-3に基づきLTE-ITS間の干渉調査の状況についての報告があり、その後次のとおり質疑応答があった。

若尾主任：検討のスケジュールについてはどのようになっているのか。

事務局：検討中となっているパターンの解についての合意が得られない限りには終了することはできない。本作業班やアドホックとの合同会合等の中で合意が得られた後に答申がまとめられることになるとと思われる。

事務局から、次回作業班については干渉調査の進捗を踏まえ、主任と相談の上、別途連絡される旨の連絡があった。

以上